
[成果情報名] イチゴ「あまおう」の花芽未分化苗の6月定植による高設栽培技術

[要約] イチゴ「あまおう」の高設栽培において、6月下旬に花芽未分化苗を定植すると、小型ポット育苗より定植までの労働時間が20%省力化される。頂果房の収穫日は小型ポット苗より遅れるが、12月から5月までの総収量は同等である。

[キーワード] イチゴ、「あまおう」、高設栽培、花芽未分化苗、省力化

[担当部署] 豊前分場・野菜水田作チーム

[連絡先] 0930-23-0163

[対象作目] 野菜

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

イチゴ栽培について、近年小型ポットの棚式育苗による高設栽培が増えているが、小型ポット(スーパーアイポット等)は培土量が100ml前後と少ないためにかん水回数が増え、集水機能のあるパネルに小型ポットを並べることによりポット中の水分量が多くなる。そのため、「とよのか」より根が細い「あまおう」では湿害を受け、苗質が不良となりやすい。一方、高設栽培システムは収穫終了後は遊休化しており、栽培槽は小型ポットより培土量が多く、かん水装置も設置されている。

そこで、高設栽培システムの有効利用と育苗および定植作業の省力化のため、花芽未分化苗の夏期定植による高設栽培技術を確立する。

(要望機関名 : 筑後農林事務所 (H17))

[成果の内容・特徴]

- 1 . 6月上旬に採苗した花芽未分化苗を6月下旬に高設栽培槽に定植すると、育苗と定植作業に係る主な労働時間は240時間で、小型ポット育苗より20%省力化される(図1)。
- 2 . 花芽未分化苗の9月下旬の生育は、小型ポット苗より葉柄長、葉身長および葉幅は2cm程度大きく、クラウン径も1mm程度大きくなる(表1)。
- 3 . 花芽未分化苗の頂果房の収穫日は、小型ポット苗より6日遅くなるため12月の収量は少なくなるが、出荷の谷間となる1月の収量は多くなる。また、総収量は小型ポット苗と同等の3,900kgである(表2、表3)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . 花芽未分化苗の6月定植栽培は、労力分散の作型や出荷の端境期の作型として活用できる。
- 2 . 高設栽培システムはダブルベリーラックコンテナ式高設栽培である。本ほハウスの天井フィルムは梅雨明けまで被覆し、梅雨明け後は昇温対策として黒寒冷紗等の遮光資材を展張する。
- 3 . 定植後は置肥あるいは液肥を窒素分量計で0.14g / 株施用し、花芽分化促進のため最終追肥は8月中旬とする。花芽分化後は緩効性肥料(エコング 424) を表層混和し液肥で補充する。

[具体的データ]

	5月			6月			7月			8月			9月			10月			育苗と定植 の労働時間 ³⁾
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
花芽未分化苗 定植栽培	~~~~~			----			=====			x=====			=====						240時間
				鉢受1) 切離			定植			最終追肥									
小型ポット 育苗(慣行)	~~~~~			---			~~~~~			x~~~~~			=====						300時間
				鉢受2) 切離						最終追肥			定植						

図1 花芽未分化苗定植栽培と小型ポット育苗の作業体系

- 注) 1. 採苗は、72穴セルトレーに鉢受けし3週間後に切離し、本ほ高設栽培槽に定植
 2. 採苗は、スハコアポットに鉢受けし2週間後に切離し、棚式育苗後に定植
 3. 培土詰め、子苗受け、ランナー切離し、施肥、摘葉および定植作業の10a当たり労働時間

表1 花芽未分化苗と小型ポット苗の生育(平成16~18年)

	葉柄長	葉身長	葉幅	クラウン径	根乾物重
	cm	cm	cm	mm	g/株
花芽未分化苗	7.9	7.5	6.6	10.5	1.77
小型ポット苗(慣行)	6.1	5.7	4.9	9.2	1.54
有意差	*	**	*	†	ns

- 注) 1. 数値は3カ年の平均値、調査は小型ポット定植時の9月20~21日
 2. 花芽未分化苗は6月25日定植
 3. t検定により**は1%水準、*は5%水準、†は10%水準で有意差あり、nsは有意差なし

表2 頂果房と2番果房の収穫日(平成16~18年)

	頂果房頂果		2番果房頂果	
	収穫日	標準偏差	収穫日	標準偏差
	月日	日	月日	日
花芽未分化苗	12月23日	±5.5	3月2日	±10.2
小型ポット苗(慣行)	12月17日	±3.9	3月2日	±8.9

- 注) 1. 数値は3カ年の平均値
 2. 開花日と収穫日は調査株の平均日

表3 10a当たり月別収量(平成16~18年)

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	総収量
	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
花芽未分化苗	450	710	420	1,250	710	370	3,910
小型ポット苗(慣行)	650	570	320	1,360	710	330	3,940
有意差	*	†	ns	ns	ns	ns	ns

- 注) 1. 数値は10a7400株当たり可販果の3カ年の平均値
 2. t検定により*は5%水準、†は10%水準で有意差あり、nsは有意差なし

[その他]

研究課題名：イチゴ高設栽培における育苗技術の改善による安定生産技術の確立

予算区分：経常

研究期間：平成18年度(平成16~18年)

研究担当者：田中良幸、渡邊敏朗、姫野修一